



Initiatives of Change

一人ひとりのチェンジで信頼を築く

# IC ニュース NEWS

Vol.35

公益社団法人 国際IC日本協会

発行年月日 2022年12月10日

発行所 公益社団法人 国際IC日本協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-28-20

パレ・エテルネル206号

TEL: 03-6273-1428 FAX 03-6273-1429

E-Mail: info@iofc.jp HP: http://iofc.jp

<International lofc> HP: www.iofc.org

頒価 1部 200円

## 第44回IC国際フォーラムを終えて 理事 佐々木 淳

去る11月3日(木・祝)、国連大学1階の、アネックスホールに於いて、第44回IC国際フォーラムを開催いたしました。皆様のご協力のもと、盛会のうちに終了いたしましたこと、感謝申し上げます。

今回は、『心の開国』ウクライナを通して見る日本 ～まず、知ること。そして、考える～』と題し、午前には、セルギー・コルスンスキー駐日ウクライナ特命全権大使をお迎えしての基調講演、午後には、グループディスカッションを通して、明日からの自らの行動としての「心の開国」を考える時間をもちました。これらの内容につきましては、追って報告致しますので、ご参照ください。

今回は、これまでのやり方とは少し異なる方法で、「国際フォーラム」を開催しました。

- ・老若男女問わず誰もが参加できる国際会議（公益社団法人としての必要要件）
- ・ICの内部に拘らない、誰もが関心を持てるテーマ設定と、ICならではの落とし込み方
- ・私たちの母国語である日本語で、内容を深め、時間を短縮する

まず、老若男女を問わず、という部分については、今回は、中学生以下のお子様の参加があり、実際に大使へ質問なども行い、大使の表情が和らぐ場面もありました。子供の参加というものは、非常に意味深いものであると考えました。

- ・子供が持つ雰囲気や、無邪気な発言から、むしろ大人が考えさせられる機会を与えられる。
- ・子供が参加できる雰囲気があれば、現役世代・子育て世代の参加も望むことができる。
- ・昔は多くの子供が参加している時期もあった → それらの「子供」が大人になって、自らのフィールドで活躍している。

多少騒いでしまう子供、それを気にする親が、気兼ねなく参加できる雰囲気を作ることこそ、新たな世代を呼び込む一番の早道ではないでしょうか。また今回、「心の開国」をテーマにしたことでの気付きも多くありました。

シェアリングでは、沖縄での体験や、仕事を通じた紛争解決などの話が出されました。グループ発表の中では、『「開国」の反対語は何か？「鎖国」である。英訳すると、「Isolation」。再和訳すると、「隔絶」である』、という話が出ました。

ICは、国際的な団体だから、心の開国を推進している。こ

の考え方は、間違っていると思います。現状はむしろ、IC自ら、「鎖国」し、「隔絶」していると感じます。

今の時代、「心の開国」や、「国際的」とは、「日本と他の国」、という意味ではなく、「あらゆる多様性を受け入れる」、ということではないでしょうか。

これまで、「これぞICだ」、「これがあってこそICだ」、というものを、IC内部の熟練者が表現をする場が、IC国際フォーラムであったと思います。これは、日本のみならず、伝え聞く海外のICの在り方とも、共通する部分があると感じます。ICはよいものである、ICの活動を広めるべきである、という純粋な心が、むしろICを特別なものと理解し、IC以外のものとは違った、またとない良いものである、という盲信に進んでしまっていないでしょうか？

これは、間違いなく、鎖国、隔絶の方向に向かいます。ICは素晴らしい、と思うがあまり、むしろ逆方向に進んでしまう。これは、冷静に見て、避けなければなりません。「国際IC日本協会」そのものが、「静かな時間」を持つ必要があると感じます。

今回、午後のシェアリングやグループワークも通して、「心の開国」を一人一人の明日からの行動に落とし込むことで、IC国際フォーラムとして成立すると感じました。その点、午前のウクライナ大使の講演のみ参加の方が多く見られたことは、非常に残念で、反省です。もし、午前のイベントがICのイベントとして成立してしまえば、単に「ウクライナ支援イベント」と理解されてしまう懸念もありますし、またそのようなイベントは、IC以外の団体にも企画できることです。

「心の開国」を推し進めるためには、あらゆる多様性を受け入れることから始めてはどうかな、と考えた今回の国際フォーラムでした。小さな子供たちを含む老若男女、ICのすばらしさを良く知っている人や少し疑問を持っている人、同じ方向は目指すが異なる方法を選ぶ人、あらゆる多様性をどう理解し、どう表現していくかが、これからのICの大きな課題ではないでしょうか。



国際 IC 評議会のジェラルド・ピレー会長(リバプール希望大学学長)は 7 月の総会で、次のように訴えました。

「過去 70 年間は、平和が戦争に勝った世界史上特別な時代でした。これは、世界大戦の悲劇を経験し、戦後道徳的、精神的な価値を高めて国際政治を担った指導者たちのおかげです。植民地国家は植民地を解放し、欧州共同体などの国際協力が発展しました。国境は不可侵であるという認識は、小さな国を大きな隣国に対する恐れから解放しました。

しかし、今これらの価値は崩壊しています。また、世界の巨大な不平等がますます紛争の原因となっています。

これを逆転しなければ、未来の世代は厳しい世界を迎えます。良心の声が権力欲に勝ることを示す必要があります。

またノルウェー IC の指導者イエンツ・ウィルヘルムセンさんから以下のメールを頂きました。

「ノルウェーとロシアが有事となれば、私のひ孫の 6 人が徴兵されます。欧州は 2 度の世界大戦を起こしました。3 度目を起こしては決してなりません」

このイエンツさんは、第二次大戦後のドイツとフランスや日本とアジア諸国との和解を担った一人です。

国際 IC 日本協会は 8 月以来「『心の開国』ウクライナを通して見る日本～まず、知ること。そして、考える」とのテーマの講演会を 4 回開催しました。相馬雪香国際 IC 日本協会元会長が「難民を助ける会」を創設した際の「難民支援を通して日本人の心の開国をめざす」という理念に基づくテーマです。首都キーウで支援活動を行っている国際 IC の女性活動家、日本ウクライナ友好協会の女性ボランティア、難民を助ける会の長有紀枝会長に加えて、スイスやフィンランドの IC 会議でウクライナの人々に謝罪をしたロシアの女性教師からも生々しいお話をうかがいました。その集大成として 11 月 3 日にセルギー・コルソンスキー駐日ウクライナ大使も招いて IC 国際フォーラムを開催し

ました。

大使は「ウクライナはソ連崩壊後、平和な、武器のいらぬ国として、経済成長と生活向上を目指して 30 年間発展してきた。軍隊を削減し核兵器を放棄した。しかし、領土保全が守られないまま紛争が始まった。国内には、汚職やオリガルヒ(新興財閥)の問題も存在した。自分の国を守る意識を国民が持つことが必要だということが教訓だ。日本の皆さんからの様々な支援に感謝したい」と述べました。また、世界宗教者平和会議(WCRP)が 9 月に主催した東京平和円卓会議「戦争を超え、和解へ」を国際 IC 日本協会と国際 IC 推進議員連盟(中曾根弘文会長)が後援しました。紛争諸国の宗教指導者が紛争終結、和解、社会の再構築を模索しました。特に、ウクライナとロシアの宗教者が一堂に会したことは歴史的でした。私は会議で、武装解除すべきは「武器」だけでなく紛争を決定する政治家の「意思」でもあることを指摘させて頂きました。

紛争や格差、汚職などに対抗できる強い民主主義とそれを支える道義的基盤を築くために、私自身も生き方を見直しながら、協会としての努力を続けて参りたいと思います。

本年一年の皆さんのご支援に心から感謝を申し上げます。



ジェラルド・ピレー会長

令和 4 年度の活動と令和 5 年度の事業計画 副会長・専務理事 足立 憲昭

●令和 5 年度(第 12 期)事業計画について

【昨年度の振り返り】

2022 年の主な出来事は次のとおり

1. 会長の交代(矢野会長から藤田会長へ)
2. 国際フォーラムの開催方式変更(連続交流会とハイブリッド形式)
3. 交流会活動として、「論語塾」を 10 回シリーズで開催
4. 新ホームページへの切り替え(IC 国際フォーラムの受付)
5. FANW(For A New World)で、日本語のアーカイブを閲覧できる体制へ

【本年度に行いたいこと】

1. シニア会員の方々に、IC 精神を实践した人生を語っていただく(交流会)
2. 日本の青少年に、海外の IC メンバーと語りあえる機会を提供(オンライン開催)
3. 会員が対面で自由に語り合う場の提供(ワークショップ形式)
4. アジア各国の IC 活動を知るための機会を提供する(オンライン開催)
5. 歴史や思想を学ぶ機会を提供する(前年に続く交流会)

【本年度の活動計画】

具体的な活動は、事業計画として承認を受けて予算化する

●IC 国際フォーラムで感じたこと

今回の IC 国際フォーラムで感じたことは以下の通り

(評価したい事項)

1. テーマ統一で、交流会・フォーラムが開催できた
2. ウクライナの実態について、マスコミを通さずに直接知る機会を得られた
3. 日本が準備(覚悟)しなければならない中国問題、ロシア問題を考える機会となった
4. IC 協会と同じような方向性で活動する人々との交流ができた
5. 個人ネットワークで、会場参加者を集めたことの重要性を再認識した
6. 「静かな時間」のテキストが作成され、参加者の理解が深まった

(反省したい事項)

1. コロナ感染の懸念から会場に来るシニア会員が少なかった。
2. オンライン開催は、70 代・80 代の会員にはハードルが高かった



3. 祝日の開催は、早い段階（半年前）から勧誘をスタートをすべきだった
  4. 母親と子供たちが参加するための環境づくりが必要だった
  5. 分科会はワークショップ形式で工夫が必要（参加型）
  6. 毎月の IC 活動により、「情報発信力」を高める
- 新ホームページへの切替え完了と今後の方向性  
《切り替え完了》
- 1.1. 無事に完了したことを確認
    - 成果物 1. 新ホームページそのもの
    - 成果物 2. 完了報告書
    - 成果物 3. 手順書
 ※成果物 2 と 3 を今後の運用業務に活かしていく。
  - 1.2. 反省点
    - ・プロジェクト管理者の役割が徹底しないまま、スタート。
    - ・開始時に、共通認識が参画者に浸透しないままスタート。

- ・定期的ミーティング開催の呼びかけが途中で中断。
- 《今後の方向性》
- IC インターナショナルのホームページと連携する IC 本部の仕組みを活用しながら、国際 IC 日本協会のホームページの価値を上げる
  - その他の検討事項
    - ・会員の意見・希望を吸い上げていく
    - ・会員間のコミュニケーションを楽にしたい
    - ・プロジェクトでの話し合いが、理事会に、どのように反映しているか
  - サイト会員（新規追加・更新できる人）の育成
    - 検討事項：新 HP を支援いただける人を育成したい
    - 支援者：新 HP のブログやイベントでの記事の投稿
  - 「更新頻度」「新規性」「フレキシビリティ」で評価
    - 検討事項：どのような評価方法を構築するか

## ブックマン博士と IC 活動に関する日本語資料アーカイブ化の現況 田中 章博

以前の IC ニュース（Vol.30 2021年7月10日発行「IC資料のアーカイブ化について」）でインターネットを使ってブックマン博士及び博士とともに MRA・IC 活動をしてきた方々の貴重な資料を世界のどこからでも閲覧できるようにする運動がいくつかの国で始まっていることをご紹介しました。

この活動の本部があるスウェーデンから、「日本側にも貴重な資料がたくさん残っているはずなので一緒に協力参加しないか」とのお誘いがあり、今年から足立副会長専務理事がプロジェクトリーダーになってその作業を開始しました。

本や書類、写真などの資料をデジタル化しインターネット上に掲載するにあたり最も重要だったことは、すでに存在するウェブサイト「For a New World」に掲載することでした。日本語資料をデジタル化するためには専用機械と作業のスペースが必要なこと、作業を間違いなく進めるためには少なくとも一人の文書管理経験者が必要であることなどから、作業を専門業者に外注委託する方針がままりました。スウェーデン本部と何度も連絡をとって、資料のデジタル化仕様の統一と送信方法につき確認をとりました。先方側も日本の参加を望んでおり、すでに今日のウェブサイトを一から作り上げた経験があり、みなさん永年 MRA・IC 活動にかかわってこられた方がたで大変親切に指導してくださいました。

2022年の初めから今日までインターネットによる通信は100回を超え、Zoomを使っての会議も数回実施してきました。

ウェブサイト「For a New World」にはすでに英語、スペイン語、中国語、アラビア語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、ポルトガル語、オランダ語、スウェーデン語、そしてノルウェー語で資料が掲載され、日本語は第12番目の言語になります。ヨーロッパではすでに二人の学者が MRA・IC 活動に関連した研究テーマで博士の学位を申請しているとのニュースも耳にしております。

国際社会での日本語の重要性、使用頻度からすると第12番目とはすこし遅かったかなとの感もありますが、世界のなかの日本という立場から今回の仕事は重要であると考えてきました。

現在までに到達できた成果を11月3日国際フォーラムで佐々木理事から報告がありました。11月20日現在 For a New World のウェブサイトに掲載されている「日本語関係書籍等一覧」は以下のとおりです。

1. IC ニュース Vol.33  
(2022年4月25日発行)
2. 第43回IC国際フォーラム  
2021 報告書
3. アジアセンター ODAWARA 40周年記念  
——戦後の日本と MRA の軌跡——
4. 日本の進路を決めた10年  
バズル・エントウィツスル著
5. フランク・ブックマンの秘訣  
ピーター・ハワード著
6. 革命の道 —フランク・ブックマンと MRA—  
グロブナー・ブックス出版
7. 世界の再建 ピーター・ハワード著
8. 世界を再造する フランク・ブックマン著
9. 人間の改造  
ポール・キャンベル、ピーター・ハワード共著
10. 思想は脚を持っている ピーター・ハワード著
11. ジョン・ライフ —労働者の歩み—  
ウィリヤム・グローガン著
12. 宗教が語る世界の平和  
—アジアから人類へのメッセージ—  
国際 MRA 日本協会
13. ~あすを愛するがゆえに~  
イレヌ・ローの生涯（映像フィルム）

インターネットで For a New World を開いて画面右上を日本語にクリックしますと、画面上に「日本語関係書籍等一覧」がでてまいります。希望する資料を指定しますとその内容を見ることが出来ますのでどうぞご覧ください。

今後も皆様のご協力のもと、さらに多くの貴重な日本語資料を掲載して、皆様および世界で日本語が読める人びとの期待に応えるようにしたいと思います。



国際 IC 日本協会の活動に青少年健全育成学校訪問プログラムがあります。事業内容は IC 協会が目指す世界平和に寄与するため、海外からの青年ボランティアを招聘し、小学校から大学までを回り、各国の文化紹介を行い国際理解を促進すると共に、寸劇や体験談の紹介を通して、家庭や家族、そして一人ひとりの存在の大切さ等を伝えていきます。2002 年にはじまり 2019 年までに訪れた学校は延べ 262 校に達し、2 万人以上の生徒や学生の方々との交流を重ね、「国際理解教育」「心の教育」を目指すプログラムとして社会的需要が高まって参りました。これまでの記録として 2021 年に「IC 学校訪問プログラム 18 年の歩み」が発行されております。

新型コロナウイルス感染症が国内において 2020 年 1 月に最初の感染者が確認され、パンデミックと言われる世界的な流行となり今に至っております。海外からの青年ボランティアの招聘はもちろんのこと、学校訪問プログラム自体が実施出来ない状況になり 3 年に成ります。その様な中で学校訪問プログラム (SVP) プロジェクトメンバーの皆様と何度もオンライン会議を開催し検討をして参りました。しかし、コロナ禍での取り組みでの課題が多く模索をして参りました。その様な中で今年度に入り国内での感染状況が落ち着きを見せ始めて来たところで、2010 年度から訪問して来た「豊里学園つくば市立上郷小学校」より国際交流授業を実施出来ないかとの相談を受けました。そこで、従来取組んで来た「学校訪問」を海外からの青年ボランティ

アを招聘する事が難しいと考え、国内の大学等に留学している学生及び外国人技能実習生に学校訪問に協力して頂く事で準備を進めております。

この度の取り組みは、筑波大学に相談をさせて頂き取り組む事に致しました。筑波大学には 117 カ国 2,226 人の外国人留学生在籍しております。その中で、同じ国出身に成らないよう、出来れば地域も分かれ、男女混合にて、ボランティア留学生を募集しております。「出身国の紹介」と「日本に留学したきっかけ」「これまでに失敗して悩み克服した体験」「これまでに成功した事で努力した体験」更に「他者にお世話に成った・感謝した体験」をお話して頂きたい。また、出身国の紹介をインターネット・書籍等では紹介されていない様な事もお願いしました。対して、小学校には事前に留学生出身国を伝え、インターネット・書籍・先生に聞いて調べても分からない様な事を質問し、つくば・日本の紹介では知られていない様な事を調べ紹介して頂きます。

具体的な取り組み日程は 12 月上旬を目途にボランティア留学生を 6 名選考します。その後、事前打ち合わせを 2 回行い「留学生間での交流」と「IC の精神」を含め学校訪問の準備を行います。通訳は元中学校英語教師で青年海外協力隊にてアフリカでの活動した経験のある先生にボランティアにてお願いしました。学校訪問実施は令和 5 年 1 月 17 日を予定しております。対象は小学 5 年生の 2 クラスで午前中 3・4 の授業時間で行います。授業終了後は各教室に別れて給食を児童と一緒に食べ、その後、校庭に IC 学校訪問プログラム記念植樹した標柱にサインをして頂きます。更に後日、振り返りの会合も行います。ボランティアに協力を頂いた留学生には IC 日本協会より証明書を付与する事に致します。事故等の責任では、法令順守にて取り組み、健康管理を含め事故あるときは参加者各個人の責任と致します。都度様々な課題に取り組み実施して参ります。皆さまのご理解ご協力をお願い申し上げます。

この度の取り組みを基に次年度においては、他の地域でも学校訪問プログラムが実施することが出来るように成ればと考えております。重ねて皆さまのご理解ご協力をお願い申し上げます。



上郷小学校の国際交流記念植樹の標識

## 事務局からのお知らせ

今年の国際的な出来事を振り返ってみると、最も衝撃的な出来事は何と言ってもロシアによるウクライナ侵攻ではないでしょうか。当協会でも、皆様ご承知の通り、ウクライナに関する交流会を 4 回開催し、「第 44 回 IC 国際フォーラム」ではウクライナ大使にご講演を頂きました。一連のウクライナに関する交流会・フォーラムを通じて、ウクライナの歴史・文化・国民生活などに理解を深められた会員も多いことと思います。今ウクライナの人々は、電気もガスも水道さえも使えない中で、寒さに耐えながらクリスマス

を迎えています。1 日も早くウクライナに、平和な生活が戻ることを祈念しております。

さて、来年には、1 月から交流会「論語塾」が再開されます。皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは HP をご覧ください。また、定時会員総会は 3 月 25 日(土)を予定しております。

今年 1 年、有難うございました。来年もよろしくお願い申し上げます。(事務局)